

令和3年9月定例教育委員会 会議録

- | | | | | | |
|---|------|---|---|---|--|
| 1 | 日 時 | 令和3年9月29日(水) | 開 会 | 午前 | 9時30分 |
| | | | 閉 会 | 午前 | 11時00分 |
| 2 | 会 場 | 茅野市役所 8階大ホール | | | |
| 3 | 出席委員 | 教育長
教育委員
教育委員 | 山田 利幸
濱 勝之
勅使川原はすみ | 同職務代理者
教育委員 | 矢島喜久雄
永嶋 陽子 |
| | 出席者 | こども部長
こども課長
学校教育課長
文化財課長
こども係長
生涯学習係長
教育総務係主事 | 有賀 淳一
五味留美子
五味 正
五味 健志
宮下 孝
河西 茂廣
小池 智也 | 生涯学習部長
幼児教育課長
生涯学習課長
スポーツ健康課長
教育総務係長
文化財係長 | 北沢 政英
柳澤 澄子
田中ひろみ
伊藤 善彦
春日 雅彦
小池 岳史 |
| 4 | 傍聴者 | 3名 | | | |

9 月定例教育委員会次第

日 時 令和3年9月29日（水）午前9時30分から

場 所 市役所 8F 大ホール

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 報告事項

第1号 教育長報告

第2号 各課からの報告

（1）学校教育課

（2）こども課

（3）幼児教育課

（4）生涯学習課

（5）公民館

（6）文化財課

（7）スポーツ健康課

第3号 教育委員会共催後援

（1）生涯学習課

（2）スポーツ健康課

4 議 案

（1）行政財産使用許可について

5 検討事項

今回はありません。

6 その他

（1）市議会9月定例会一般質問について

（2）市議会9月定例会議決結果について

（3）臨時教育委員会について

（4）宮川高部下馬沢川土石流災害の被害状況と今後の対応について

（5）尖石縄文文化賞の受賞者について

（6）永明中学校校庭遺跡発掘調査途中経過について

（7）教育委員会事務局職員の人事異動について

（8）通学路合同点検途中経過について

次回定例教育委員会日程について

	10月28日(木)	9時30分「8階大ホール」
(事務局会議	10月13日(水)	9時00分「602会議室」)

7 閉会

○教育長

予定時刻より少し早いですが、9月定例教育委員会を始めたいと思います。
最初に、8月定例教育委員会会議録ですが、承認としてよろしいでしょうか。

○全委員

異議なし。

○教育長

ありがとうございます。のちほど署名をお願いします。

それでは次に、報告事項第1号の報告に移ります。

1日に全員協議会、2日に市校長会がありました。2学期最初の校長会ということで、コロナ対策、オンライン学習の準備等様々な課題を話し合いました。

3日に議会一般質問がありました。

6日には、高部の土砂災害関係で、神長官守矢資料館を視察しました。特に守矢邸には、床下まで泥が流れ込んでいました。文化財課の職員を中心にボランティアの方も含めて、原状復帰しようと努力されていました。

9日に、市教頭会が予定されていましたが、コロナ対応下であり先生方は学校にいらっしゃったほうがよいということで中止にしました。

10日に予算決算委員会がありました。

13日14日に、議会一般質問が再開されました。

17日にコロナ関係と災害関係の本部会議がありました。

21日、校長面談と書いてありますが、学校の校長先生との面談がこの時期より始まっていきます。10月半ばに終了になります。

22日は議会の最終日でした。

24日に、縄文文化賞の市長報告がありました。後ほど報告があると思いますが、新進気鋭の若い学者が素晴らしい論文を書いてくださいました。それが茅野市で選考できるという点は、縄文の価値が上がってきていると言えると思います。

27日には、小泉山の関係者の方々のイベントのぬりえ審査がありました。各保育園から出していただいたぬりえを審査し、優秀賞と最優秀者を決定しました。

11月に、ロビーで展示がありますのでご覧ください。

28日ですが、諏訪市町村教委連絡会があり、矢島職務代理にも出席していただきました。ありがとうございました。

29日、30日予定は資料の通りです。私からは以上です。

報告第2号「各課からの報告」学校教育課長からお願いします。

○学校教育課長

報告第2号、各課からの10月の予定です。

1日金曜日に、臨時の教育委員会を9時から、市役所7階701会議室で開催します。当日は、新教育委員関係の予定もございます。

11日月曜日の午前中に、主幹指導主事訪問があります。玉川小学校を担当されてる委員はお願いします。

28日木曜に日定例教育委員会が、9時30分から8階大ホールで開催します。

以上です。

○こども課長

2ページこども課です。

10月の予定は、通常の行事となっています。

以上です。

○幼児教育課長

3 ページ、4 ページ、幼児教育課です。

通常の園長会その他研修の他に、10月は令和4年度の入所受付が始まります。

また、9月から延期していた運動会は10月に入って運動発表会として実施していきますので、よろしくお願いします。以上です。

○生涯学習課長

5 ページ、生涯学習課です。

2 日、小泉山、秋の植物観察会は中止となりました。

6 日に、豊平保育園で予定していた絵本の時間見学会の中止が決定しています。

11日からの見学会が、中央保育園からが始まります。全6保育園を回る予定となっています。

12日、調べ学習コンクール審査会は、教育長ご出席で開催の予定です。

18日、紺綬褒章伝達式（中林忠良氏）ということで、教育長から表彰していただきますが、令和2年に作品13点を茅野市美術等に寄贈いただきました。紺綬褒章の表彰が令和3年の1月末に決定をしていましたが、コロナの関係もあり、2月には市に賞状等届いていましたが、埼玉県お住まいということでお渡しができずにいました。

そして、この度市の美術館で開催される収蔵作品展で、再び先生の作品が展示されるのに合わせ、茅野市に来られるということで、教育長よりお渡しをいただくことになりました。作品展は現在開催中で10月末までの予定となっています。

18日、小泉山体験の森創造委員会20周年記念事業パネル展が開催されます。先ほど教育長さんからお話がありましたとおり、小泉山体験の森が20周年ということで、保育園の子どもたちへぬりえをお願いし、その入賞作品170点あまりを含めパネル展を開催の予定です。

30日に同じく小泉山体験の森で武田信玄狼煙リレーが開催されます。

同じく30日午後に、小泉山体験の森創造委員会20周年記念式典開催の予定です。

6 ページをご覧ください。家庭教育センターです。

15日から、子育て講座「体と心をぎゅーだっこ」が始まります。9月開始予定を延期しており、全8回の会議を6回に短縮して開催となります。

28日に「レッツ、ベビーダンス」講座の予定があります。

7 ページをご覧ください。図書館です。

恒例のおはなし会は、資料のとおりです。

21日には、諏訪東京理科大学の出前講座「地球温暖化を考える」として理科大学の学長先生にお話をいただきます。

「012おはなし会」、「おはなしわ〜んど」、「おなかのあかちゃんおはなし会」はすべて16日の土曜日に開催しますので、資料の訂正をお願いします。

8 ページをご確認ください。公民館です。

1 日に秋の山野草展については中止となりました。

4日の肩掛け組紐・お守り講座、5日の陶芸講座は、当初8月の予定でしたが、延期ということで、10月開催になりました。

6日は、高齢者大学卒業証書授与式で10名の方が卒業されます。こちら教育長出席予定でしたが、公務が重なり、生涯学習部長出席での授与式となります。

10日の市民芸能祭、17日の市民音楽祭ともに、本年度は中止とします。

23日の市民芸術祭作品展、菊花展ということで、規模を例年より縮小して作品展を開催します。10時から、市長、教育長をお呼びしてオープニングセレモニーを開催の予定です。

26日は、坂本養川堰マップ完成発表会ですが、諏訪、茅野、原、富士見の各公民館職員による任意団体で坂本養川堰研究会を設立し、県の元気づくり支援金を活用しての事業として、小学校4年生ぐらいでもわかるような内容のマップを作成してきましたが、26日には、その完成発表会の予定です。教育長には来賓としてご出席をいただく予定です。

以上です。

○文化財課長

9ページをご覧ください。文化財課です。

明日から警戒レベルが2に引き下げられるということで、考古館、博物館、資料館、青少年自然の森を明日から開館開始をしていきます。

初めに考古館の行事予定です。

9日ですが、第22回宮坂英弼記念「尖石縄文文化賞授賞式」を考古館で開催します。教育長の出席をお願いします。教育委員の皆様にも改めてご案内します。

同日ですが、5000年記念のタイムカプセルの開封式を開催します。時間については、打ち合わせ中で未定ですが、こちらも教育長の出席をお願いします。

続いて、縄文文化大学講座ですが、昨年の受賞者である千葉大学准教授の阿部明典先生を講師として、環状列石研究の現状と課題を講演いただきます。

10日は、終日縄文教室関係の野焼きを史跡公園キャンプファイア場で開催します。

16日は、縄文ゼミナール③ということで、山梨県埋蔵文化財センターの佐藤信子先生による「土偶のあなとその意味」という講演を行います。

17日と20日は、ちの縄文遺産市民ガイド育成講座を開催します。こちらは文化財課の職員が講師を務め、市長が挨拶に見えられる予定です。

続いて10ページ、八ヶ岳総合博物館、神長官守矢史料館の行事予定です。

それぞれの講座やクラブは、感染状況に応じて取り組みを進めていきます。

特に26日は、第31回研究・創意工夫展の審査会を行います。30日から研究・創意工夫展を12月5日まで開催し、11月23日に研究・創意工夫展の表彰式を開催する予定です。

また、それぞれ事業を感染症対策に留意して取り組んでいきます。

以上です。

○スポーツ健康課長

11ページ、スポーツ健康課です。

スポーツ施設も9月30日から、全施設再開になります。

8月に延期していたひよこ教室ですが、2日から18日まで水泳と床をアクアランドと総合体育館サブで再開になります。

10日に予定していた市民スポーツ祭ですが、式典は初めから中心の予定でしたが、各種目もスポーツ協会の方で、すべて中止と決定しました。以上です。

○教育長

質問ご意見ありますか。

○全委員

質問なし。

○教育長

報告第3号「教育委員会共済・後援」をお願いします。

○生涯学習課長

1 ページをご覧ください。生涯学習課関係です。

8月25日から9月17の受け付け分として2件の後援申請がありました。

要領に基づき審査し、承諾決定しましたのでご報告します。

○スポーツ健康課長

2 ページをご覧ください。

スポーツ健康課です。第100回全国高校サッカー選手権大会の長野県大会、さらに、長野県中学校新人体育大会南信地区大会兼県大会各種目を共催として承認しました。以上です。

○教育長

意見質問ありますか。

○教育長

議案第1号「行政財産使用許可」について学校教育課長お願いします。

○学校教育課長

行政財産使用許可申請についてです。こちらの申請書が8月に東京都の六本木ヒルズ森タワーから出されています。

申請の内容については、まず行政財産については7ページに表を作っていますが、市内13校、すべてに使用したいという内容になります。

使用する部分の面積等ですが、5ページに設置をする機器等一覧があり、こちらを建物についてそれぞれ3台設置をしたいという内容です。

1ページの申請書に戻っていただき使用の目的ですが、消費電力を抑えて遠距離通信を実現するLPWA通信技術を用いた地震センサーを敷設したいということで、茅野市役所にLPWAの受信用のアンテナが設置されていることから、このセンサーを茅野市周辺の企業と作成し、茅野市の小・中学校をフィールドとしてセンサーを設置し、実証実験を行いたいというものになります。

使用期間に関しては、許可日から令和5年の3月31日までという申請内容になっていますので、ご審議をよろしくお願いします。以上です。

○教育長

質問意見ありましたらお願いします。

勅使川原委員お願いします。

大まかな目的は理解できましたが、具体的に茅野市として設置するにあたって、どうして市内各小学校を使わなければいけないのかをもう少し詳しく目的内容についてお話いただけたらありがたいです。

○学校教育課長

災害等の事前察知をするために、地震センサーを建物の屋上・1階そして敷地に設置するものです。

さらに、このセンサー自体が、電力を消費が少ないかつ通信距離が長いものになりますので、市役所に中継アンテナがあることもあり、茅野市の各10地区に、小中学校があるので、そのセンサーをつけることによって、地震等の災害を感知するというようなセンサー開発をしているということで、その実証実験をするにあたって、学校をお借りしたいという内容です。

○勅使川原委員

実証実験のためということで、期間が終わってもそのまま常設することもあるのですか。

また、学校ではなく、地区センターという考えはなく、設置することによって子どもたちに電波等弊害はないということですか。

○学校教育課長

LPWAセンサーについては、そのような被害はないということと、別の会社のこのセンサーを開発しているところで、登山等で機械を持っていくことによって、位置情報がわかるようなことで、事前にこのような実証実験も行われていますので、被害等はないと考えています。

センサーが、期間後も設置されるかどうかは業者の考えにもよると思いますが、まずはこのセンサーが災害の事前サーチについて有効かどうかを見極めたいということだと思いますので、今後の実証実験次第になるかと思われます。

○勅使川原委員

LPWA通信技術を使うことは、行政で精査しながら決定した経緯については間違いはないということによろしいですか。

○学校教育課長

直接教育委員会へ設置についての相談があったわけではなく、市の担当部署と打ち合わせの上で、実証実験を行いたいということで相談があつての経過になりますので、その担当部署とは打ち合わせをされていると思います。

○教育長

他に質問ご意見ありますか。

それでは、議案第1号については承認とします。

次にその他1「9月定例会一般質問について」お願いします。

○生涯学習部長

市議会9月定例会一般質問についてお願いします。

9月定例会市議会は、教育委員会関係で4名、5件の一般質問がありました。要旨について、順に報告していきたいと思います。

初めに、矢島正恒議員から質問番号3縄文遺産を活かした「まちづくり」について、小項目として(1)縄文プロジェクトで推進している各種事業の取組の状況と今後の展開について

(2)尖石石器時代遺跡や国宝「土偶」、縄文史跡の更なる活用についての2点をいただいています。

1点目ですが、縄文プロジェクトは、平成26年度「縄文プロジェクト実行市民会議」発足を機に、「識(し)る」「広める」「産み出す」「楽しむ」「守る」の5つの部会を設け、事業を進めてきました。

主な取組は、『縄文かるた』の刊行、縄文プロジェクト専用ホームページの開設、縄文関連商品の開発等で特に平成29年度開催の「第0回八ヶ岳JOMONライフフェスティバル」は、茅野市の縄文遺産を生かしたまちづくりにより多くの縄文ファンと大きな成果をもたらしました。

平成22年「縄文プロジェクト構想」から10年が経過。この間、国宝の指定、国宝「土偶」2体の国内外展覧会の出展、特別史跡尖石遺跡が追加指定による範囲拡大等の追い風に恵まれました。この10年間「私達の生活の中で普遍性を持たせる取組」という縄文プロジェクトの基本的な考え方が、市民に理解され浸透したと考えます。

令和2年度「第1回八ヶ岳JOMONライフフェスティバル」開催は、コロナ渦を契機として課題検討を行い、「10年間の取組で一定の成果が得られたこと」で中止決定しました。

縄文時代は、「およそ1万年のあいだ、人と自然が共生し、人々が大きく争うこともなく、協力し合い平和に暮らしていた時代」といわれています。私たちは、その生活様式と精神性を基盤とし、持続可能な地域社会を築き、生活を営んできました。より便利で快適な暮らしを求めた結果、気候変動や環境汚染などに直面し、これまでの生活を見直さなければなりません。

私たちが抱える課題の解決や、SDG s の達成には、縄文時代の生活様式と精神性が注目されています。

茅野市には、特別史跡尖石遺跡、縄文のビーナス、仮面の女神の国宝「土偶」があり、優れた縄文遺産を所有する強みをいかし、「縄文の里」から、縄文文化と縄文の精神性を発信することを考えています。

そのため発信の拠点となる尖石遺跡の第2期整備に着手とともに市民ガイドの育成に取り組む考えです。

2 ページをご覧ください。縄文遺跡の保存と活用という本質的な部分をしっかり磨き、育てたいと考えています。事業を確実に進め、縄文プロジェクトの基盤を整えていきます。

2 項目目に関して、茅野市の縄文遺産は、文化財としての活用の他、縄文プロジェクト取組で、教育、産業・観光振興、福祉・生活の各分野で活用されています。

尖石遺跡は、確認調査現地説明会、小中学校縄文・市民科、尖石縄文まつり開催、遺跡内ウォーキング等で活用。市内点在の縄文遺跡は、遺跡探訪会などに活用、国宝「土偶」は、展示公開、縄文学習の資料、教科書・雑誌等への写真の掲載、土産や旅行商品に活用されています。

今後更なる活用について、尖石遺跡は、確認調査に体験発掘の機会を設け、縄文・市民科の学習、次代の縄文研究、遺跡の保護を担う人材の育成などに活用します。第2期整備により、遺跡の価値と魅力を高め、来場者の増加と満足度の向上を図ります。

国宝「土偶」は、大英博物館や東京国立博物館等の展覧会に出展し、好評を博しました。これからも可能な範囲で館外展示公開を促進し、本考古館の入場者数の増加につなげていきます。

これらの縄文遺産の活用にあたり、平成22年度から実施の縄文検定上級合格者に「ちの縄文遺産市民ガイド」として、国宝「土偶」や尖石遺跡だけでなく、国宝「土偶」の出土地や市内に点在する縄文遺跡を広く面的に案内できるよう育成することで、茅野市の縄文の魅力を多くの方に伝えることができると考えています。その育成講座を本年度から始めています。

平成24年度から、尖石遺跡、上之段遺跡、駒形遺跡の国指定の縄文遺跡と国宝「土偶」が出土した棚畑遺跡と中ッ原遺跡をめぐるバスツアーを実施しています。これらの縄文遺跡に、日本遺産の構成文化財県史跡「池ノ平御坐岩(ございわ)遺跡」、市史跡「枳窪(とちくぼ)岩陰(いわかげ)遺跡」、下ノ(しもの)原(はら)遺跡を加えバスツアーの充実を図り、「日本遺産事業」と「ちの観光まちづくり推進機構」との連携により、商品化し観光振興につなげていきます。

○こども部長

続いてこども部の関係です。

同じく矢島正恒委員から、「通学路における交通安全の更なる推進について」という内容でご質問いただきました。

小項目については3点あり、1つ目が「小中学校における通学路の安全対策確保の取り組みについて」。

2つ目は、「通学路における交通安全施設の整備について」。

3つ目は、「自分の身を守る交通安全教育・指導の推進について」です。

2 ページにお戻りください。1つ目ですが、主要な通学路は、道路状況を考慮し、安全確保を優先として、学校ごとに通学路を定めている。

通学路の安全点検については、年度初めに学校職員とPTA役員が現地調査を実施し、危険箇所を児童、生徒および保護者に周知している。

また、平成27年4月に「茅野市通学路交通安全プログラム」を作成し、これに基づき、年に一回「茅野市内通学路交通安全推進協議会」を開催している。

この他、平成30年には、防犯の観点から緊急合同点検を実施した。

なお、本年6月の千葉県八街市の事故を受け、今後合同点検を実施する予定。と回答しました。

2つ目ですが、交通安全施設の整備は、建設課で「茅野市通学路交通安全プログラム」に基づき実施している。地元区からの要望箇所や交通事故の多発地点などについても現場確認を実施し、逐次必要な対策や整備を実施している。

通学路等へのグリーンベルト整備、ゾーン30区域を設定して、歩行者の安全の確保に努めている。

今後、緊急合同点検の結果や、地区からの要望等を踏まえ、グリーンベルトの新設や更新の必要性を検討するとともに、新たなゾーン30区域の指定、区域拡大についても、関係機関と連携しながら必要性の検討をしていく。と回答しました。

3つ目ですが、小学校では、新入学児童の入学当初の登校時は、上級生が下級生の面倒を見ながら登校し、下校時は、教職員の付き添いによる集団下校を実施。この前後に交通安全教室を開き、PTAや見守り隊により街頭指導を実施している。

中学校では、教職員による街頭指導、学級指導、全校集会、生徒会の生活委員会の活動、長期休暇前に外部講師を招いての生活安全講演会などを行っている。

建設課では、各小学校からの講師派遣の依頼を受け、実施内容に応じて各種団体の協力を得て、年代に応じた交通安全教室を実施している。

今後も、市、学校、保育園と関係機関が協力し、実効ある交通安全教室を実施していく。と回答しました。

なお本件に関係します通学路合同点検の途中経過について、後ほど改めてご説明します。

続いて長田近夫委員から、「高校生への消費者教育について」小項目として、3点質問いただいています。

1つ目「消費者教育を行うことについて」。

2つ目「市の現状について」。

3つ目「課題について」です。

主には市民環境部案件ですが、教育委員会の関係もそれぞれ入っていますので、ご説明します。まず1点目ですが、年齢20歳をもって成年とする規定を18歳とする改正が令和4年4月1日に施行され、これにより、18歳であれば親の承諾がなくても一人で有効な契約をすることができることになる。

また国は、消費者被害の防止等の観点から、「消費者教育の推進に関する法律」を平成24年12月13日に施行した。

これを受け県では、「長野県消費生活基本計画・長野県消費者教育推進計画」を策定し、取組を進めている。

この計画により、小、中、高校への外部講師派遣事業、出前講座を実施し、この他「新学習指導要領」に基づき消費者教育を実施している。と回答しました。

2つ目ですが、当市においては、茅野市・富士見町・原村の広域化した「茅野市消費生活センター」を平成28年10月に設置し、消費生活における相談の他、出前講座を継続的にを行い、消費者トラブルの注意喚起を行ってきた。

茅野市消費生活センターに寄せられている相談のうち、令和2年度の若年層からの相談状況では、269件中、10代が1件、20代が20件で、内容別では通信販売によるトラブルが13件、店頭販売によるものが5件で、この他、訪問販売、多重債務、不動産関係がそれぞれ1件ずつという状況。

小中学校においては、社会科、家庭科、道徳等の教科を中心に消費者教育に関する指導を行っている。と回答しました。

3つ目ですが、今回の成年年齢引き下げにより、18歳になれば親の承諾を得なくても商品等の購入契約が成立する。この契約に関する基本的な考え方や責任については、親と子が共に理解し自らの判断について、責任を持って行動できる能力を育む教育が必要。

県の発表による、消費者トラブルの相談は、高齢者が一番多いが、年々、高校生や若者からの相談が増えてきている。反面、どこにも相談しない人が多いという課題がある。

また、中学生から高校生になると携帯電話の保有率が格段と上がり、インターネット関係のトラブルが多くなっている。

市としても、注意の啓発と、トラブルが起こったときに相談ができる窓口の周知の強化が今後の課題だと考えている。

これからの社会を担う若者、高校生世代が消費者被害、事故に遭わないことを目指す一方で、「消費者」の権利と責任を自覚し、加害者側に立つことの問題性、相談することの個人的意味や社会的意味を認識することによって、社会全体から消費者被害や事故を減らすことや、社会の発展と改善に積極的に参加することの大切さへの気づきが促されると考える。

これからの消費者教育は、すべての年齢にわたり、また学校に限らず地域や家庭などあらゆる場面で学ぶ必要があることから、家庭、学校、地域、行政が情報を共有し、関係機関と連携を図りながら、安全・安心な消費生活の実現に努めていく。と回答しました。

続いて両角実晃議員から「生命（いのち）の安全教育について」ご質問をいただきました。小項目として、1つ目「生命（いのち）の安全教育の取り組みの現状について」。

2つ目が、「生命（いのち）の安全教育の取り組みの課題について」。

3つ目が、「生命（いのち）の安全教育の今後の対応について」です。

まず1つ目は、文科省は、学校等において、生命の尊さを学び生命を大切にする教育、自分や相手、一人一人を尊重する教育をさらに推進するとともに、就学前の保育を含め、性暴力や性被害の予防や対処に関する教育については、地域の協力や保護者の理解を得ながら有効な取組は直ちに進めるべきとしている。

また、児童生徒がＳＯＳを出しやすくなるよう、相談体制の強化も重要とされている。

茅野市では、保育園において「保育所保育指針」に基づき、入所する子ども一人一人に対して生命の保持、情緒の安定を図る養護と、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための教育が一体となった保育を行っている。

一人一人が尊重される環境を大切に、自己肯定感を高め、幼保小連携教育により、円滑な接続ができるよう努めている。

小中学校においては、平成30年に、子どもたちの豊かな心を育むために、「心のよつばのクローバープラン」を打ち出し、小中一貫教育のもと、児童生徒の心の教育を行ってきた。これは、文科省が示す、生命の安全教育にも通じる取り組みでもある。

また、発達段階に合わせ、保健体育、家庭科、道徳、人権教育等を横断的に絡めながら、より良い判断や行動がとれ、お互いに認め合うことで、自分も、相手も大切にできる生き方を学んでいる。性教育では、自らの命や性に関して関心を高め、自己肯定感を養いながら生命の教育として取り組んでいる。

特に中学校においては「ＳＯＳの出し方に関する教育」も行っている。

支援については、「育ちあいちの」を核とし、学校、保護者とも連携をとり、包括的な支援体制を整えている。

問題が生じたときは、スクールカウンセラーや、臨床心理士と繋がりながら、メンタル面のフォローを行うと同時に、状況に応じて、医療機関、警察、児童相談所等とも連携しながら、問題解決に努め、保護者とも関係性を築きながら、注意喚起も行っている。と回答しました。

2つ目ですが、文科省では、学校における生命の安全教育推進のため、児童生徒の発達段階に合わせた教材と指導の手引きを作成し、公表している。今後、実証事業を経て、指導モデル等が情報提供される予定となっている。

支援体制では、見えないところで起きる問題をどのように把握し未然防止に繋げていくのか、また、スピード感を持って対応するために、保護者との信頼関係を構築し、情報共有を図ることが求められている。

また、SNSの使用については、第1次茅野市ICT教育推進計画の教育アクションプランにおいて、「情報モラル・セキュリティの理解」として位置づけ、小中学校において授業を行い、茅野市ICT教育推進会議の家庭情報モラルアップ部会において、家庭内でのルールの設定、保護者が身に付けるべき情報知識の展開等家庭における情報モラルの向上を図っているが、保護者に対する周知や学びの場の強化が必要であると考えている。

児童生徒のメンタル面のフォローに関しては、不安定な状況が長引く場合は、丁寧に1人1人に寄り添いながら心のケアに努めていくことが必要。

既に取り組みを進めている茅野市の取り組みをさらに強化していく。と回答しました。

3つ目ですが、小中学校における教材や指導については、文科省の研究を待つ必要もあるが、茅野市においても、研究をする必要もあると考える。

また、「たくましく・やさしい・夢のあるひと育ち」を願って、学校教育のみならず、家庭教育、社会教育のあらゆる分野で様々な施策を進めている。

SNS等の目に見えないところで問題が起きてからの支援にとどまらず、未然に防ぐ対策を家庭と共に行っていくことが重要。性教育の原点は家庭にある。来年度、第3次どんぐりプランの中間見直しを行うこととなっているので、その中で家庭支援のあり方を位置づけていきたい。

相談支援体制についても、「育ちあいちの」を核とした現在の体制を維持し、きめ細やかな対応を行っていく。

これまでの経験を活かしながら、各関係機関や地域、家庭との連携のもとに学びが推進されるよう、情報を共有しながら、進めていきたい。と回答しました。

最後に木村かほり委員から「ICT教育の取り組みと学校と保育園等でのコロナ対応について」です。

小項目として1つ目、「ICT教育の現状について」。

2つ目、「コロナ禍におけるICTの活用について」。

3つ目、「学校や保育園等での生活について」。

4つ目、「心のケアや学びの保障の取り組みについて」です。

1つ目ですが、今年度から、児童生徒一人一台のタブレット端末が整備され、学校現場では、ICTを効果的に活用して「主体的、対話的で深い学び」を創り出し始めている。

各校では、市のICT教育サポートセンター指導主事や、県のICT教育推進センター指導主事の指導を受け、試行錯誤しながら進めている。工夫を凝らした授業を公開することで、教員同士が学び合い、スキルアップを図り、ICTの専門家の先生を招いた研修も実施している。

「ICT教育サポートセンター」では、ICTを日常的に授業等に活用していく風土を作り上げることを目指して、学校、教員、家庭への支援や研修会を実施している。

機器の使用方法是クリアしているが、授業づくりが課題であり、授業構想、授業づくりについて、夏休みまでに、20回以上の研修を行い、今後の授業に活かすよう進めている。また、日常的に、個別の相談や、家庭からの電話等も受け付け、対応している。

さらに、中間教室や、教室での学びが難しい児童生徒について、個別に学ぶことができるよう、希望がある場合には、タブレットを貸し出し、オンラインを用いた授業も行っている。と回答しました。

2つ目ですが、これまでも、緊急的な端末の持ち帰り等を実施してきたが、臨時休業等になった場合でも、継続した学びの保障を行うために、オンラインでの授業に対応できるよう、準備を進めている。

タブレット端末を持ち帰り、Wi-Fiの接続確認と、各校の状況に合わせた授業等の練習を行っており、9月上旬までには全ての小中学校で1回目を終了させる予定。

オンライン教育を行う上での課題や、改善点を明らかにすることも目的とし、今後も計画的に実施する。児童生徒がタブレット端末を持ち帰り、使い方を習熟していく中で、家庭での利用も平行して進めていく。

オンラインでの授業については、臨時休業や学級閉鎖で、児童生徒が自宅にいる場合には、クラウドサービス等を活用した課題の提示や授業を行う。また、対象となる児童生徒のみが休んでいる場合には、希望によりオンラインで授業を行う。

通信環境のないご家庭には、Wi-Fiルーターの貸し出し制度を、要保護及び準要保護児童生徒援助費を受給しているご家庭には、通信費の一部を補助する制度を、それぞれ新設した。と回答しました。

3つ目ですが、保育園は、保育を必要とする子どもが利用する施設であることから、感染防止対策の徹底を行い、開園を継続している。

子どもたちに対し、日常活動の中で、マスク・手洗い・手指消毒を徹底できるよう指導し、職員は、消毒の徹底、三密を避けることを意識した取組と保育室内の換気に努め、保育を実施している。このことは、変異株に置き換わっても、基本的な感染予防対策は変わらないため、継続して行っている。

更に、感染警戒レベル4以上では、感染リスクが高いと考えられる行事等について、縮小や一部中止とし、外部の人を園舎内に入れない対策をしている。

このような感染対策を行っていても、園児、又は職員が新型コロナウイルスに感染した場合には、諏訪保健所の指示に従い、濃厚接触者の特定と消毒の期間、休園等の措置を取る。なお、保護者には、急な休園措置等をとった場合でも混乱しないよう、保育園の対応についてあらかじめ通知をしている。

小中学校では、現在の感染状況を踏まえ、児童生徒が不安なく学校生活が送れるように、学校だよりを通じて、学校における具体的な感染防止対策や、ご家庭に協力いただきたい事柄を丁寧に伝えながら、みんなで乗り越える教育を継続している。

また、引き続き差別や偏見を生まないよう、人権に対する教育を徹底し、心配ごとがある場合は、相談のできる体制を整えている。

なお、8月27日に文科省から、「学校で児童生徒等や教職員の新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応ガイドライン」が出され、緊急事態宣言対象地域等に指定された状況下での、学校における濃厚接触等の特定や、臨時休業の判断に当たっての考え方が示された。今後、「新型コロナウイルス感染症対策に係る県立学校運営ガイドライン」と併せて参考とし、対応していく。

なお、国の基本的対処方針では、教職員等のワクチン接種の促進が示されている。市では、早期接種により、おおむね9月中までには、希望する職員等の接種が終了する見込みとなっている。

現在、デルタ株への置き換わりが進む中で、全国的に感染者が急速に増加しており、保育園や学校では、感染警戒レベルと市内の感染状況を考慮しながら必要な対応をしていく。と回答しました。

4つ目は、感染症対応が長期化し、身近なところでの感染や、休校、行事の中止やいろいろな情報が流れてくる中で、子どもたちや保護者も不安やストレスを抱えることが多くなっていると感じている。

心配ごとや相談は学校と「育ちあいちの」が連携し、個々の状況に寄り添いながら、相談や支援を続けている。

学びの保障については、臨時休業等になった場合でも、学びを継続できるよう、対面学習、協働的学習、オンライン学習をそれぞれ柔軟に組み合わせ、分散登校、時差登校にも対応できる準備を進めている。

また、中間教室や、教室での学びが難しい児童生徒についても、ICTを活用することで、それぞれの状況に合わせながら、教室での授業に遠隔で参加したり、個別に学んだりする取組を進めている。と回答しました。

9月の定例会一般質問については以上です。

○教育長

質問意見ありますか。

○全委員

なし。

○教育長

続いてその他2「市議会9月定例会議決結果について」お願いします。

○こども部長

その他2の資料をご覧ください。

9月定例会に提出した議案等については、すべて可決、同意、認定等をいただいています。

このうち教育委員会に関連する議案としては、議案第39号「茅野市教育委員会教育委員の選任の同意を求めることについて」です。こちらは、教育委員会では、現在4名の方に委員をお願いしていますが、濱勝之委員の任期が9月30日をもって満了となりますので、後任の委員として若御子雅英さんに委員をお願いするという内容です。

また、若御子さんの経歴等については、1日の臨時委員会の方で詳細にご説明をさせていただきたいと思っています。

裏面をご覧ください。議案第52号ですが、こちらは9月13日に追加で上程させていただいたものです。

こちらの内容は、9月5日発生の土石流等に係る補正予算で、同日9月13日に提出し、即日に議決されたものです。

内容は、教育委員会に関するものも含まれますので、後ほど報告資料の説明をさせていただきます。

続いて議案第53号は、こちらは議案第40号として提出したのですが、ここに、9月13日の第8号を差し込みましたので、議案第8号を第9号に繰り下げて再提出をさせていただいたものです。

こちらは、第8号の内容と、変わりませんので説明は省きますが、議案は可決されています。

以上が市議会9月の定例会の議決結果です。

続いて、補正予算第8号について、ご説明します。

○生涯学習部長

令和3年度一般会計補正予算書の写しの1ページをご覧ください。

令和3年度茅野市一般会計補正予算の第1条です。

総額に、歳入歳出それぞれ1,059,140千円を追加し、歳入歳出それぞれ29,230,445千円とする案を可決しました。

そのうち教育委員会に関係するところとして、歳出部門の、16ページ・17ページをご覧ください。

11款、2項、4目、事業3の社会教育施設災害復旧事業費です。こちらは、210万円の補正増となっています。17ページに移り、説明としては工事請負費のその他の維持修繕工事、単独災害復旧工事となっています。

内容としては、神長官守矢史料館の周辺と、市指定の守矢邸へご承知の通り土砂が流れ込み、堆積土等の復旧工事を行いました。詳しくはその他4で報告いたします。

教育委員会に関係する事案については以上です。

○教育長

質問ご意見ありますか。

○全委員

なし。

○教育長

その他3「臨時教育委員会について」をお願いします。

○学校教育課長

10月の予定でご報告しましたが、10月1日の金曜日午後9時から、市役所7階の702会議室にて、臨時の教育委員会を開催します。

内容については、新しい教育委員のご紹介となります。以上です。

○教育長

「宮川高部下馬沢川土石流災害の被害状況と今後の対応について」をお願いします。

○文化財長

資料をご覧ください。

被害状況ですが、写真をご覧ください。下馬沢川土石流の土砂が神長官守矢邸の敷地に流れ込み、市史跡「神長官守矢邸跡」指定地、及び市有形文化財「神長守矢家祈祷殿」とこれに連なる神長官守矢邸の床下に10cm～15cmの土砂が堆積しました。

幸い、市指定文化財にはき損がなく、県宝「紙本墨書守矢家文書」等を収蔵する神長官守矢史料館に土砂が流れ込むこともありませんでした。

復旧の状況ですが、9月7日に所有者を交え、復旧作業の協議を行い、翌日から土砂除去作業を開始しました。業者及びボランティアの協力を得て、24日までに屋敷地と建物床下の土砂の除去がほぼ終了しました。

今後の対応ですが、植木の根本や庭園に据えた石際の土砂の除去、神長守矢祈祷殿の土台の洗浄及び雑菌消毒等を行い、1日も早い復旧を目指し作業を進めます。

以上になります。

○教育長

質問意見ありますか。

○生涯学習課長

中央公民館から高部に関して1点よろしいでしょうか。

資料はありませんが、関連ということで、9月5日に発生した高部区の土石流災害について、中央公民館においても避難者の受け入れをしましたのでご報告します。

9月5日日曜日の夜から9月9日の木曜日までの状況で、延べ59世帯、126名の避難者を中央公民館で受け入れました。うち宿泊されたのは52世帯109名になります。

市では、宮川地区コミュニティセンターを避難所として中央公民館を補完避難所として位置付けていますが、市としての避難指示が出た場合また、避難指示は出なくても自主避難者が多く、宮川コミュニティセンターのみでは受け入れができない場合などは、中央公民館を避難所として利用します。

これらの対応は今までとは変更がないわけですが、高部区の本格復旧には複数年かかると聞いていますので、今まで以上に災害時の対応協力体制をとりながら、また利用者の皆さんにもご理解をいただきながら、公民館運営をしていきたいと思っています。中央公民館からは以上です。

○教育長

他にありますか。

その他5「縄文文化賞の受賞者について」お願いします。

○文化財課長

資料をご覧ください。第22回宮坂英式記念尖石縄文文化賞受賞者について説明いたします。

尖石縄文文化賞は、毎年信濃毎日新聞社及び公益財団法人信毎事業文化財団のご講演をいただき実施をしています。

6月から7月にかけて公募を行い、今回選考の対象となった研究は、個人団体合わせて13件でした。

今井市長から諮問を受けた選考委員会で、8月24日及び9月12日にオンライン等で委員会を開催し、受賞者を選考しました。

選考委員は、国学院大学名誉教授小林達雄先生を初め、7名です。

その結果、現在、九州大学大学院人文科学研究院助教の福永正将先生を受賞者として推薦することに決定し、9月24日に市長に答申していただきました。

市として、答申通り福永先生を受賞者として決定したところです。

先生の略歴ですが、平成元年生まれの福岡県ご出身という家庭の研究者になります。

令和2年に現職になりました。主な研究業績としては、2020年発刊の「東と西の縄文文化縄文後期社会構造の研究」等があります。とても深い内容となっています。

裏面をご覧ください。選考理由ですが、縄文文化研究で課題となってきた縄文文化の東西差の発現メカニズムについて、縄文時代後期・晩期の土器の広域分布の変動や生業・集団構成等から研究を行い、縄文文化の多様性とその背景に関する認識を大きく進化させたこと、また、東西縄文後期社会モデルは、イギリスや中国上の新石器時代等の遺跡の調査も含めて幅広い研究の視野から導き出されたものであること。以上の点が評価されました。

受賞式については、先ほど報告させていただいた通り、10月9日午前10時から尖石縄文考古館で行います。

以上です。

○教育長

質問意見ありますか。

その他6「永明中学校遺跡発掘調査途中経過について」お願いします。

○文化財課長

引き続いて、文化財課からお願い永明小中学校学建て替えに伴う永明中学校校庭遺跡発掘調査の途中経過について、ご説明します。学術的な内容も含まれますので、小池文化財係長より説明いたします。

○文化財係長

4月から永明小中学校の建て替えに伴い、グラウンドで発掘調査を進めてきています。

今年度は、約6000平方メートルを対象に行っていて、これまでにおよそ3分の2となる3500から4000平方メートルの調査が終了しました。それらの成果については、8月の下旬にマスコミ関係の皆さんに現地を公開し、新聞等で報道していただきました。それも踏まえ、簡単ですが報告いたします。

これまで11軒の住居跡が見つかっています。内訳ですが、弥生時代の後期、ちょうど卑弥呼の時代と言われている頃の家の跡が10軒。

平安時代の家の跡が1軒見つかっています。

人間の掘った溝が2本見つかっていて、また、旧河道という水が流れたような小さな谷の跡が1ヶ所を確認されています。

住居跡の中で注目されることが、長辺が10メートル近い比較的大きなものが複数見つかっているという点です。

また、当然ここには人間が住んでいたのもので、弥生時代や平安時代の人たちが使った土器や、石で作った道具などのいろいろな生活の道具が残されていて、大量に出土しています。

裏面をご覧ください。9月の半ばにドローンを使い上空から現場を撮影して、等高線や、家の跡がどの位置にあるのかを正確に落とす作業をしました。

また、教育普及活動の一環として、近隣の保育園・小中学校の地域学習に積極的に現場を公開し、活用してきました。

8月の下旬に、現地説明会を開催する予定でしたが、コロナ禍のためやむなく中止しました。

その代わりに、縄文プロジェクトのホームページの中に、日記風に綴った発掘の様子を掲載してあります。

また本日までビーナチャンネルで、若手の職員らが登場し、番組を作っていたいただいたので、ご覧いただければと思います。

少し学術的なお話も簡単にしたいと思います。

昭和45年のグラウンドの造成にあたり、弥生時代の家の跡が2軒見つかったというのが遺跡の発見のきっかけになっています。

平成に入り、ちの地区センター、永明中学校内の小規模な修繕工事、永明小学校グラウンドの試し掘り等によって、少しずつ遺跡の様子が明らかとなり、グラウンドを中心に展開する弥生時代の大きな遺跡であることが確認されたのが一番大きな成果だと思います。

さらに、今回発見された弥生時代の10軒の住居跡は、あまり時間差なくつくられた比較的短期間の村であることも何となくわかってきました。

このグラウンド周辺は、古くからの茅野市の中心地として、宅地造成等を行っていますので、一見すると平らに見えてしまう地形ですが、グラウンドという広い範囲を発掘することによって、高いところ低いところが連続する複雑な地形であることがわかってきました。高いところには家がつくられ、低いところは、ある時期には水が流れたというような集落の景観も少し復元できるような成果が得られました。

今後の調査の見通しですが、8月のお盆前後の雨や9月の集中豪雨等の雨が続く、発掘調査が遅れ気味ですが、12月年内終了を目指して頑張っていきたいと思っています。

以上です。

○教育長

質問意見ありますか。

○全委員

なし。

○教育長

コロナが収束すれば皆さんで見学をしたいです。

その他7「教育委員会事務局職員の人事異動について」をお願いします。

○こども部長

資料はありませんので口頭でご説明します。10月の定例の市の人事異動に伴い、教育委員会で1名人事異動がありましたのでご報告いたします。

健康福祉部高齢者保険課国保年金係の高橋百合主査が、10月1日より教育委員会事務局こども部こども課こども係へ移動となりました。

これによってこども部は1名増という人事異動です。以上です。

○教育長

続いて、その他8「通学路合同点検途中経過について」をお願いします。

○学校教育課長

先月の教育委員会で合同点検について箇所数のご報告をしましたが、その際97箇所ということでご説明しました。

その後4箇所増え、101箇所を対象として現在合同点検について進めています。

学校から報告がありました危険箇所については111箇所、その内定検済みだったものが10箇所あり、残りの101箇所を点検しました。

101箇所については、教育委員会で現地を確認した後に、再度安全指導等に対応するものが、60件、残りの41箇所については、今回合同点検を実施するということで現地確認をしたものになります。

合同点検については、9月の13日から17日までご覧の通りの学校で行いました。

点検参集者については、茅野警察署、諏訪建設事務所、教職員、PTA、コミュニティスクール、市建設課、市教育委員会の職員で実施をしています。

下の表は、学校ごとに件数をまとめていますが、点検未実施の中の合同点検実施について、施設の対策が必要なものが41箇所中26箇所。指導等に対応できるものが26箇所ということになりましたので、この26箇所については、今後それぞれの関係機関で、検討・対応していくような流れになります。

今後の予定として施設対応が必要な箇所は、茅野市通学路安全プログラムにより、進行管理をし、市のホームページにより公表したいと考えています。

なお、それぞれの区間により対応できる区間については、随時対応していくような格好になります。以上です。

○教育長

意見質問ありますか。

○学校教育課長

訂正をお願いします。合同点検の実施日の最終日が、6月17日となっていますが、9月17日金曜日に訂正をお願いします。

○教育長

この表以外でも危険箇所がありましたらぜひ教えていただけたらと思います。

○勅使川原委員

豊平小学校の施設対応が0になっている点は、これは先日点検はしたが、子どもたちへの指導する対応でとどまったということですか。

大まわりをしなければいけなかった大日影の道路の関係で、お金はかかるかもしれませんが一定の期間側溝に蓋などをして、歩道の道幅を確保できるようにしてほしいという話があったと思いますがその辺は、参集者で話し合った結果学校の指導で、子どもたちの交通安全指導をしていくということでしょうか。

○学校教育課長

そちらの箇所については道路改良工事の計画も進んでいます、今すぐ対応できるという状況ではなく、現状の対応を継続するという事で、それぞれの機関と確認をしたという結果です。工事が全くできないというわけではなく、工事は随時進めています、それぞれ調整等が必要になりますので、早急に対応できないということをご理解をいただければと思います。

○勅使川原委員

難しい問題ですが、この場所は交通量が増えてきて、住宅地になっているので道路として買い取ることは無理かもしれませんが、何か方法を考えていかなければ子どもたちが、子どもたちが通学路として決めるにあたっては、もう少し検討して早く改良していただければ思うのでお願いします。

○学校教育課長

今回の箇所については交通安全プログラムにより進行管理をしていきます。

年末の協議会の中でも、こちらに関してはまたお話をする機会になると思いますので、建設事務所等にもお願いをしていますが、工事自体は止まっているわけではなく、それぞれの機関で尽力されてるかと思いますので、その点についてはご理解をいただければと思います。

○教育長

その他ありましたらお願いします。

○こども部長

新型コロナウイルスの関係です。

本日をもって、諏訪市・茅野市に発出されていまして警戒レベル5が解け、明日から諏訪市・茅野市については諏訪圏域と同じレベルということでレベル2になります。

これに伴い、それぞれの施設等で続けていた休止・休館等の対応をしていた施設についてはまた再開していくということ、また学校・保育園等の行事の自粛をしていた部分については、警戒レベルにあった対応に戻していきますのでご承知おきください。

○教育長

事務局お願いします。

○教育総務係長

次回10月の予定をご報告します。

定例教育委員会を10月28日の木曜日、午前9時30分から8階大ホールで、行います。

事務局会議について10月13日の水曜日、午前9時から602会議室の方で行いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○教育長

最後になりますが、この9月定例会で濱委員さんが最後の会となります。4年間ありがとうございました。

4年前の少し寒い日の初めて委員になられた日のことを思い出します。

濱委員が就任されてから、コロナの対応という中で、口数こそ多くはなかったですが、それぞれのポイントで大切なことを私たちにご指摘いただきました。

これで教育委員会を離れられるわけですが、これからの教育委員会にご支援をお願いします。

最後に一言挨拶をお願いします。

○濱委員

教育委員の濱です。最後ご挨拶をさせていただきます。まずは、山田教育長をはじめ、教育委員の皆様、市の関係者の皆様、私のようなやんちゃ坊主を4年間温かく見守っていただきましたこと改めて感謝御礼申し上げます。ありがとうございました。

先ほど山田教育長からお話がありました。当時は、教育委員の歓送迎会というものがありまして、当時、平成29年の10月25日でしたが、実は私その日は、45歳の誕生日でした。

時の柳平市長に、午前2時頃までしっかりとお祝いをさせていただきましたこと、今でも鮮明に覚えています。

思い起こせば4年前、当時、宮川のコミュニティセンターの所長の五味所長と、渡辺係長と、どんなやりとりがあり私のところに声をかけていただいたのかよくわかりませんが、課長が定年してから、ゆっくりその話は聞かせていただきたいと思います。

私はその25日に、歓迎会の席上で4年後の自分に会えるのが楽しみですというような挨拶をさせていただきました。

4年が経ち、どのように成長したかよくわかりませんが、何が変わったか、今回のコロナで世界が一変しました。今までの常識が、常識ではなくなりました。そんな新しい世界に入ってしまった。

教育の現場が、停滞するということがあってはならないということを改めて実感しました。

当時、宮川小学校の校庭のど真ん中に雑草が生えていました。学校校庭の真ん中に草が生えている光景は見たことがなかったので、とてもびっくりして、ショックでした。

そんなコロナの中、山田教育長初め市の関係者の皆様が毎日、対応に追われながら日々を過ごしている。

やりたいことが何もできない。やるべきことが何もできない。そんなことを考えると、本当に心が痛みます。

早くコロナが収束し、茅野市の教育が再び大きく一歩前に踏み出すことができるように本当に強く望みます。

山田教育長に、4年間お世話になり、参加をされている方、会議に参加されている方への思いやりをしっかりと勉強させていただきました。

必ず参加されている皆さんに声をかける。挨拶の中で声をかける姿を見て、この人すごいなっていうことで毎回、教育長の挨拶楽しみにして参りました。

そのようなことで、しっかりと勉強をさせていただいた貴重な4年間を過ごすことができました。

今後は一市民として、教育の現場を陰ながらしっかりと応援させていただきます。

私は学生時代によく先生に、少し歴史の勉強しなさいとよく言われました。

都度先生に、俺は親父に過去振り返るな。前だけを見て歩いて行け。とて言われて来ましたなんていうそういう話をしてきました。

前例がなければ前例をつくればいい。出る杭は打たれるが、出過ぎた杭を打たれないなんてことを言われながら成長してきましたから、こんなになってしまいましたけど。

4年間教育という現場に携わることができて、少しだけ大人になれたような気がします。

これから茅野市も短い夏が終わって厳しい冬をやって参ります。どうか皆様お体には、十分労わっていただき、今後、茅野市の教育が一歩でも前に進めていただくことができればと思います。

私もそれぞれの立場ではございますが、茅野市のために、微力ではありますがご尽力をさせていただきます。

簡単ではありますが、この後の予定がありますので、今日はこのくらいにしたいと思いますのでよろしく願います。

お世話になりました。

○教育長

ありがとうございました。

9月定例会を終了します。

茅野市教育委員会会議規則第19条第2項の規定によりここに署名する。

令和3年10月28日

茅野市教育委員会

教 育 長

同職務者代理

委 員

委 員

委 員

こども部長

